

小平図書館友の会 会報 48 号



発行日 2022 年 11 月 15 日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ネット公開版

New ウェブサイト <https://kltomonokai.wixsite.com/my-site>
ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>
Eメール kltomonokai@gmail.com

ウェブサイト



ブログ



もくじ

- 小平図書館友の会 25 年のこれまで、これから..... 1
- 「布の遊具 “ひまわり”」 3
- 学習会報告 YA を楽しむ会..... 5
- 第 25 回総会報告 6
- 元氣村まつり参加 4
- 読書サークル・小平β 5
- 図書館協議会報告 6
- 中央図書館古文書展示（お知らせ） 6
- 蛭田廣一さん講演会 2
- 和装本作り 4

小平図書館友の会 25 年のこれまで、これから

小平図書館友の会は、1998 年 10 月 4 日に発足しました。発足時会員数 67 名。初代会長は本間浩氏。図書館ファンが集まり、「さあ、はじめよう！」という熱気にあふれていました。11 月に会報創刊号を発行。翌年 1999 年には、古本市を開催。

あれから 25 年。2022 年 10 月の会員数は、117 人。様々な方達が楽しめる会を、みんなの図書館をよりすばらしいものにしていこうと、講演会・講座、5つの学習会（サークル）、文学散歩、交流会など種々の活動をしています。学習会は、会員自身が「こんなことをしたい」と呼び掛けて始まったものばかりです。

毎年開催している「チャリティ古本市」は、会員だけではなく、多くの市民に期待される催しになりました。コロナでここ数年休止しており、この 3 年の間に、古本市世話人会の高齢化が進んでしまいました。どんな形でなら復活できるのか、真剣に話し合っています。

熱気あふれる「若い」友の会も、発足からふた昔半。一時は 160 人を超えた会員数も 120 名弱となりました。このコロナ禍で、図書館は休館、利用制限となりましたが、本の貸し出しが継続したことは、うれしいことでした。やはり図書館っていいなと実感しています。とはいえ、友の会の活動は、やはり実際に集まって行うことが理想的。まずはコロナが収まることを願うのみです。

コロナが収まったら、活動を全面復活・再開して、以前にもまして楽しくて役に立つ図書館友の会にしていきたいですね。どんな会にするかはひとりひとりの会員次第。やりたいことをたくさん提案していただき、コロナ収束を、小平図書館友の会の新たな門出のチャンスにしたいものです。

(伊藤規子)



2001 年 国際子ども図書館見学

ひろかず
蛭田廣一さん講演会

「小平の近現代史を探る」—小平村の誕生から市制施行まで—

2022年10月15日 中央図書館視聴覚室 および ZOOM 配信

剣持香世

元小平市中央図書館長であり、元小平市企画政策部市史編さん参事を務められた蛭田廣一さんに2時間の講演をお願いしました。蛭田さんは小平市の歴史に精通され、どの時代を切り取ってもたくさんのエピソードを伺うことができます。今回は、明治時代に小平村が誕生し、大正・昭和と時代が移る中でこの地がどのような変化を遂げ、発展していったのかを目次に沿ってお話ししていただきました。

1. 小平村の誕生から市制施行までの沿革
2. 地引絵図・旧公図及び小平村全図
3. 鉄道の開通と都市開発
4. 小平学園の開発と人口増加
5. 戦争と軍事施設
6. 町制施行
7. 炭疽病菌騒動と米軍機墜落事故
8. 三町合併運動
9. 市制施行と町名変更

各項目それぞれに興味深い史実があり、「もっと知りたい」を我慢しながら拝聴しました。中でも印象深かったものを記します。



知らなかった、その1……小平市内を流れる玉川上水は江戸に住む人たちの飲み水として利用されていました。しかし明治時代になるとこの水流を物資の運搬に利用して、物流を盛んにし、産業を発展させようとし、小平は生糸やお茶の産地でもあったので江戸へ、その先の横浜へと大量にスピーディに運ぶ手段として使われました。羽村—四谷間を一時は104艘の手漕ぎ船が行き交ったそうです。しかし、玉川上水の通船はわずか2年で廃止になります。原因は水質の汚染でした。

その後、輸送の手段は鉄道へと移行していきます。内藤新宿から八王子までの甲武鉄道計画には周辺住民はもろ手を挙げて賛成しますが、いざ汽車が自分の土地の中あるいは側を通るとなると反対し始めます。汽車は火を噴くので火事になる、振動で鶏が卵を産まなくなるといった理由でした。玉川上水に沿っての当初の計画では、上保谷新田や小平の小川

村を通るはずでしたが頓挫し、代わりに（先見の明があった？）武蔵境周辺の地主や国分寺周辺の地主が土地を安く売り、今の中央線になっているそうです。

知らなかった、その2……昭和19年2月11日の町制施行時に戸数は1,895戸、人口は15,595人でした。戦時中には軍事施設が多く作られ、それに伴って人口も増えていきました。また「厚生の家」という家庭菜園付きの小屋で、戦争の遂行に役立つような国民の体力向上や、健全な余暇生活ができるよう都心から人を呼ぶ方策も取られました。戦前の、病院や大学の誘致に加え、戦後は企業も多く開設されていきました。現在小平市の中には7つの駅がありますが、なんと小平町時代には11の駅があったそうです。その多くは武蔵野鉄道多摩湖線にあり、玉川上水そばの「桜堤駅」、「商大予科前駅」、「小平学園駅」（この二つが今の一橋学園駅となる）、「厚生村駅」（今の中央公民館のあたり）、「青梅街道駅」、「萩山駅」（当時は現在の萩山プールのあたりだった）、それに「本小平駅」（今の小平高校北側あたりで小平駅とはつながっていない）の7駅。加えて西武鉄道村山線の「花小金井駅」、「東小平駅」（主に都心からの肥料用の糞尿を降ろすための駅でふるさと村の北東側）、「小平駅」。西武鉄道川越線の「小川駅」。以上の11駅です。

知らなかった、その3……昭和29年9月13日に小平町議会で、小平・国分寺・小金井の3町合併推進を決定します。小金井町と国分寺町が了承し、翌年1月には3町合併促進協議会の立ち上げとなります。合意寸前となったところで地元住民の大反対運動が起こり、過激化し、ついに協議会解散に追い込まれました。協議会発足からわずかな期間で合併問題は棚上げとなったそうです。「それぞれの町が上手くいっているのに、なんでいまさら？」という意見のようです。もしも実現していたら立川市よりも大きい市になっていたかもしれませんし、どんな市政が行われていたでしょう。想像は楽しいですが歴史にifはないですね。

小平の『小』の由来について、蛭田さんはこう述べられています。地名の由来については公文書に命名の経緯などの記載がないのですと断られ



たうで、「昭和初期頃から、小川村の『小』に平らな土地の『平』を合わせた説が現在も通説となっているが、明治17年(1884)7月にそれまでバラバラだった新田地域をまとめた『小川新田他六ヶ村連合戸長役場』が成立した。中心となった小川新田は今の仲町にあたり、役場は熊野宮に設置された。そのことから『小平』の『小』は小川新田の『小』ではないかと思う」と。*小川新田他六ヶ村連合戸長役場は小川新田の他、鈴木新田、回田新田、野中新田

与衛門組、野中新田善左衛門組、大沼田新田、小川村の6村。

役場は、明治17年7月から熊野宮、大正元年9月から元仲町公民館、昭和39年3月から現中央公民館、昭和58年から現市役所と変わっていく。

他にも、「昭和21年10月29日読売新聞の炭疽病菌騒動—小平町の農林省獣疫調査所から炭疽病菌培養中の牛を盗んだ犯人が、新聞で毒牛と知ってその精肉を玉川上水に捨て、都民を巻き込んだ大事件」や「昭和28年6月18日の米軍機墜落事故—朝鮮戦争最中、立川米軍基地から飛び立った米軍機が小川の農地に墜落し127人全員が死亡した当時世界最大の航空機事故」などのエピソードを知ることができました。小平の地の刻々と変わる風景や人々の思いや暮らしぶりに想像の羽を広げて楽しんだ2時間でした。終了後の参加者アンケートには講演の続編を望む声が多く聞かれました。

図書館への協力団体 「布の遊具“ひまわり”」

布と糸と針を駆使して子どもたちのために様々な遊具を作っているグループ、「布の遊具“ひまわり”」の方々に紙面インタビューのかたちでお話を伺いました。

■活動を始められたのはいつごろからでしょう？
動機やきっかけを教えてください。

—1986年に「拡大写本の会“ひまわり”」という名で視覚障がいの人たち向けに、教科書や絵本などの文字を手書きで大きくする活動をはじめました。図書館から「布の絵本」を作ってほしいと依頼され、しばらくの間、午前は拡大写本、午後は布の遊具・絵本を作っていました。拡大写本はパソコンの普及で簡単に印刷できるようになり、布の絵本、遊具づくりが主な活動となったので、2012年に「布の遊具“ひまわり”」に名称を変えました。

■作品をつくっていくうえで、楽しみややりがいはいかがでしょう。また、苦勞している点がありますか？

—作品を作るときは、皆でアイデアを出し、大きさや形式などの基本を統一します。手芸が好きな仲間が集まっているので、分担したところをいろいろ工夫したり、他の人のやり方を知るのも面白く楽し

みです。途中で全体のバランスを整えながら仕上げます。

図書館に納めているので、本との橋渡しもしたいと思いますが、著作権があるので出版されている本を写すことはできません。昔話や、言葉あそび、季節の行事、小平にちなんだものなどを自分たちで考えて作っています。

■作品は主に小川西町図書館に多く置かれています。利用者の感想はいかがですか？

—直接感想を聞く機会はあまりありません。イベント等で利用されたときには「布の感触が良い」「危なくないし、破ってしまう心配がないので安心して遊べる」「色がきれい」など好評です。

■障がい者サービスのひとつとして取り上げられています。運用の仕方についてご意見がありますか？

—障がい者サービスに限定せず、どなたにも利用していただければいいようにしてほしいです。市民の皆様には周知されていないようなので、もっと宣伝してもらいたいです。

壊れたり汚れたりしたら、すぐに修理、作り直します。

■今後はどのような作品を予定されていますか？

——布の特徴を生かした作品。

ボタン、ファスナー、リボン、などの手芸用品を使って場面を変えられるもの。知的好奇心を刺激するもの。クイズ、なぞなぞ、ことわざなど。

■そのほかアピールしたいことなどありましたらお書きください。

——もっともっと使っていただきたい。コロナ禍で「触る」ことにためらいがありますが、収まったら布の感触を楽しんでもらいたい。作品は小川西町図書館に置いてありますが、各図書館のカウンターに

写真付きのカタログが備えてあります。一度ご覧になってみてください。

手芸の好きな方、絵本の好きな方、ぜひ仲間になってください。
(代表 松原路子)



元気村まつり ミニ古本市で参加
2022/10/23 (日)

元気村まつりは、小平市民活動支援センターあすぴあ主催で行われています。コロナ感染予防のため2年間オンライン開催でしたが、今年はオンラインと久々の会場参加のハイブリッド開催となりました。

小平図書館友の会は、屋内広場でミニ古本市をしました。卓球台一台を与えられ、前日に古畑さん宅に置いてある本を車2台分運び出しました。文庫本、新書、単行本、児童書、マンガ本、雑誌、昭和史シリーズを並べ準備をしているうちに、いつもの古本市と全く規模は違うものの、どんな風に並べたら本が見やすいか、手に取ってもらえるかなど考えるだけでワクワクしてきました。

当日は、友の会のエプロンをしてお客さんを迎えました。価格はほとんど30円（一部特価もあり）。お客さんたちは結構熱心に卓球台を一巡しながらお気に入り



の本を見つけていました。中学生が、手塚治虫の「ブラックジャック」13巻を買い、とびきりの笑顔をしていました。目玉の昭和史シリーズはしっかりとした本だったので、本の重さに躊躇され、断念する方が何人かいたのは残念でした。売り上げは8,050円。友の会のお手伝いは8名。久しぶりに古本市で味わう充足感、高揚感のある楽しい一日でした。

読み終えた本を寄付していただいて、それを次の読みたい方へ手渡す。醍醐味のある古本市は経験すればするほどやりがいがあり、眠っている本の活用、

本のリサイクルにも繋がります。これからもなんとか新しい形で本を待っている方々へ届けることができたらと思いました。
(内田清子)

和装本作り 体験講座
2022/11/9 (水)

日本に古くからある和綴じのノート作りを図書館職員の方に教わりました。和装本の歴史をクイズを織り交ぜて説明があった後、好みの千代紙と糸を選んで取り組みました。

本紙（中紙）と見返しを半分に折り、組み合わせから、綴じる側の上下を糊付けする、仮止めのための針穴を目打ちであける。白糸で仮止めする。背側の角を「角切れ用布」で包む……。

→目打ちで穴を開けるのは結構な力仕事！



かなりの工程をこなして2時間半、それぞれのオリジナル和装本が出来上がりました。（剣持香世）



学習会報告

YAを楽しむ会

私はなかなか月に毎月は参加できていないのですが、そんな私をメンバーの皆さんはいつでも温かく受け入れてくれます。同じ本を読んでも受け取り方や印象に残る点がそれぞれ違っていたり面白く、みんなの意見や感想に共感したり疑問をもったり……課題本をきっかけに話題は広がり何気ないおしゃべりになごむのもこの会のいいところです。

9月の課題本『オール・アメリカン・ボーイズ』では、アメリカを舞台に黒人の少年ラシャドがお店でカバンを開けたところにちょうど後ろの婦人が倒れこんできたため万引きを疑われ、暴行を受けて警官に取り押さえられます。ラシャドが黒人でなければ起きなかった事件かもしれません。当事者のラシャドと警官を兄のように慕う白人の少年クインの両者の視点から物語は語られ、最後はダイ・インという人種差別に反対するデモへと続きます。難しい問題ではありますが、みんなが自分のこととして考えていくことが大切だと本は叫んでいます。日本も異なる民族の人たちが増えていく中で問題もいろいろ起こっており考えさせられました。

課題本に取り上げられていなかったら自分では手に取らなかったであろうこれらの本が大きな世界へとつないでくれます。課題本はみんなで決めるのですが、こうした社会問題からファンタジーや青春ものまで、大の大人たちがいろいろな世界を楽しんでいます。

ぜひ一緒に参加してみませんか。

(岩上尚子)

～「2022年5月から2022年10月までのテキスト～」

■5月27日(金) 中止

■6月24日(金) 5月分と併せて4冊

『すももの夏』 ルーマ・ゴッデン 徳間書店

『この川のむこうに君がいる』 濱野京子 理論社

『戸村飯店青春100連発』 瀬尾まいこ 理論社

『JK、インドで常識ぶっ壊される』 熊谷はるか

河出書房新社

■7月22日(金)

『ダーウィンと出会った夏』

ジャクリーン・ケリー ほるぷ出版

『マレスケの虹』 森川成美 小峰書店

■9月30日(金)

『オール・アメリカン・ボーイズ』 ジェイソン・レノルズ ブレンダン・カイリー 偕成社

『神さまの貨物』 ジャン＝クロード・グランベール
ポプラ社

■10月28日(金)

『ウルド昆虫記 バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎 光文社

『車夫』 いとうみく 小峰書店

読書サークル・小平β

コロナ感染拡大防止のため、しばらく開催されていませんでした「読書サークル・小平」は、「読書サークル・小平β(ベータ)」という新名称で2022年7月から再開しました。

■5月28日(土)

懇談会：自主的サークルとして開催を決定。

■第1回 7月17日(日)

10名参加

課題本：堤未果『デジタル・ファシズム』

NHK出版新書 2021.8.30

■第2回 9月18日(日)

8名参加

課題本：斎藤幸平『人新世の「資本論」』

集英社新書 2020.9.17

■【次回】第3回 11月20日(日)

課題本：エマニュエル・トッド『第三次世界大戦はもう始まっている』 文春新書 2022.6.17

次の課題本を、なるべく新しい新書・文庫から参加者で決め、紹介と進行は持ち回りです。中高年の男性たちと女性が一人の参加でした。

年を重ねると、経験からの思い込みや先入観、世に合わず習慣や配慮、見たくないものは避ける傾向などで、ちょっとした努力がないと知識と発想が貧しくなるように思います。一方で、気候変動、パンデミック、戦争、貧富の拡大、資本主義や民主主義の限界、技術革新など、知って考えるべき事柄は沢山あります。世代や性別の異なる多様な参加者と、歴史思想文学なども含む幅広いジャンルで、関連図書も読み語り知見を共有できる、楽しい読書会であることを願っています。(加本実)



第25回小平図書館友の会総会報告

2022年10月2日

10月2日(日)13時30分より中央図書館視聴覚室にて、利光中央図書館長にもご出席いただき総会が行われました。今年度も昨年と同じく、コロナ感染症拡大防止の観点から、会員のみなさまにはハガキによる議決権行使書で賛否をいただき、会場には役員他、会計監査、選管、議長候補が集まりました。議決権行使書数が会員数の過半数以上となり総会は成立、議案審議を行いました。

まず2021年10月から2022年9月までの活動報告、決算報告があり可決承認されました。さらに次年度の活動計画案、予算案、役員改選による候補者承認も可決されました。役員会で提出した5号議案の「会則改正」については、反対票はなかったものの送っていただいた議決権行使書が会員数の3分の2(78通)以上とならず、会則改正の必要数に満たなかったため来年度へ見送りとなりました。

*改正案は、「会費納入が3年以上行われない場合は退会とする」というもので、会費納入と会員資格の関係性を会則に明記しようとしたものです。

来年の総会はいつものスタイルに戻り、活発な質疑応答や会員同士の交流も含めた会になることを願っています。(剣持香世)

図書館協議会報告

令和4年度の図書館協議会は、年間6回。

5月、7月、9月がすでに行われました。

学識経験者の方々はもちろん、公募の委員の方々からも実に活発に意見や質問がでて、なかなか実のある会議となっています。

図書館行事は多岐にわたります。ハンディキャップサービス交流会、こだいら子ども読書月間イベント、ギャラリー展示、音訳者講習、お話学習会、なかまちティーンズ委員会、蔵書点検、講座・講演会、学校からの図書館見学(小2、小3など)、ブックトークの出前、教員研修受け入れ、よるのおはなし会、大人のためのおはなし会、絵本のへや、大学生インターシップ受け入れなどなど。こうやって数えていくと連日のように行事があって、図書館って、本の貸し出し以外にずいぶん多彩な行事をしているん

だな、と感心します。図書館協議会では、それらの実施報告を受け、質問していきます。

そのほか、歴史公文書の利用開始について(9月)学校図書館協力員の派遣について(7月)第4次小平市子ども読書活動推進計画令和3年度進捗状況などの報告がありました。

小平図書館友の会が長年要望してきた宅配サービスの対象者拡大についても、この10月から実証実験が始まったのはとても嬉しいことです。(～令和5年3月まで。対象地域：小川町、小川西町、小川東町、学園西町)いよいよ高齢化が進む今、宅配サービスが全市的に拡大されることを期待しています。

図書館協議会は、傍聴ができます。傍聴されると、図書館への理解も、要望や提案も思いつかれるのではないかと思います。(伊藤規子)

★お知らせ★

小平市中央図書館2階展示ギャラリーで開催中
古文書展示 『古文書からみるアウトロー』

日時：令和4年12月14日(水)まで

場所：中央図書館2階展示ギャラリー

内容：江戸時代、アウトローと呼ばれる人たちがここ小平にも実在しました。彼らが引き起こした博奕・喧嘩・窃盗・殺人事件などの古文書を紹介します。



小平市立図書館サイトの案内記事

<https://library.kodaira.ed.jp/news/?id=264>